

# 教宣 せぶん

## 不思議なビデオ

従業員「必見」という、先般行われた臨時支店長会議の社長発言の抜粋ビデオをご覧になりましたか？ その中で、画面の中のトップは「コンプライアンスがいまや企業存亡のカギを握っている」「コンプライアンスをすべての施策の最優先課題に取り組んできた」「言っていることとやっていることが違うことは許されない」など、他社が発令された重い行政処分を前にして、カメラに向かい、危機感を前面に押し出し、必死に再度「コンプライアンス」を訴えていました。

この経営者にむかって、「法令を遵守しろ」「都労委の勧告を守れ」「言っていることとやっていることが違うじゃないか」と声を出している者としては、ビデオの中の「必死さ」に奇異な感じ、不思議な感じを覚えて仕方ありませんでした。「必見」ビデオですので、まだ見てない方もいずれ視聴する機会があると思いますが、多かれ少なかれ「奇異さ」や「不思議さ」を感じるのではないかと思います。

言うに及ばず、会社が掲げる「法令」とは保険業法だけではありません。私たちに直接関係のあるところと言えば、労働法はもちろんのこと、労協や第三者機関の判断、判例など、すべて「コンプライアンス」の中に含まれます。「こっちの法令は守らなければならないが、こっちの法令は不都合だから守らなくてもいいや」では当然済まされないわけですが、いまこの企業の経営者がやっていることは、まさに「ご都合主義」と呼べるものですし、「二面性がある」と言わざるをえません。

あれだけ必死に「コンプライアンス」をこの企業の経営者が訴えたわけですから、その「コンプライアンス」をこの企業の経営者自らに守らせる責任が私たちにはあると言えます。企業内では私たちの主張は「うやむや」にされたり、この企業の経営者は団交や経協の席には顔を出さないと決めていたりするようですから、この企業の「ご都合主義」「二面性」は世論や法に訴えていくしかありません。

「顧客第一主義って言っているけど、全然顧客のことなんか考えていないじゃないか」。こんな声と同調しなければよいのですが。